

本校裏には、1haの学校林があります。本校の子どもたちは、1年を通して、この学校林で多くの活動に取り組み、自然体験を通して、たくさんのことを学びます。

マイツリー （6月10日）

新1年生は入学すると、学校林にあるシラカバ、ミズナラ、クリなど多種の中から1本だけ「マイツリー」を選びます。その後、木の専門家に「マイツリー」の名前（樹名）を



教えてもらい、木の太さを計測して、樹名札をつけてもらいます。この木が、「マイツリー」として学校林にいつまでも残ります。在学中はもちろん、卒業後もいつでも学校林にある「マイツリー」を見に来ることができます。高学年になると総合的な学習の時間を使って、「マイツリー」について調べ、自分でまとめ、発表をします。作成した資料は、校内に掲示されて、多くの人の目に留まります。

雪が融けると、子どもたちは学校林に入って本格的に学習活動を行います。木の芽や葉っぱの様子など、季節ごとに違う森の様子を子どもたちは、体全身で感じています。昨年との違い（葉の大きさ、色など）に気付く子どももいます。



植樹・木登り体験 （9月20日）

秋には、子どもたちが楽しみにしている「植樹」と「ツリークライミング」の活動があります。専門家の方に植樹の方法を教えてもらいながら、毎年、学校林に植樹を行っています。今年は、エゾヤマザクラ10本、ナナカマド10本を植樹しました。苗木といっても、2mを超えるので、みんなで協力して植樹場所まで運び、穴を掘り、苗木を立てて、穴を埋める活動です。大変な重労働でしたが、学校林に桜の花が咲く日を子どもたちは、楽しみにしています。

同日に木登り体験（ツリークライミング）を行います。専門家の指導で安全に楽しく樹上の世界を体験し「鳥の目」になる活動です。1年生でも4～5mの高さまで登ることが出来ます。慣れている高学年であれば、スイスイと10m近くまで登ります。子どもたちによれば、コツをつかむと上手に素早く登ることができるそうです。子どもたちの活動を保護者の方は、下から見上げて、声援を送ってくれています。



巣箱はずし・巣箱かけ・冬の活動（11月～2月）

学校林で行う冬ならではの活動は「巣箱はずし」「巣箱かけ」「スノーシューによる冬の学校林探検」「そり遊び」です。秋になると、昨年かけた巣箱を一度はずします。はずした巣箱を高学年がきれいに掃除します。中から羽毛やわらなど巣の形跡が残っていることもあり、子どもたちから喜びの声があがります。今年は、2つの巣箱に形跡が見られました。



その後、冬にまた巣箱をかけ直します。巣箱の高さや方角、どの木がいいのかをグループのみんなと相談します。「巣をつくってね」という願いを込めて、巣箱をかけます。

雪が積もると「スノーシュー」をつけて冬の学校林探検を行います。長靴では埋まって歩けない学校林を自由に歩くためには、「スノーシュー」は欠かせません。

夏には手が届かない枝の先をさわったり、雪の中で発芽を待つ芽のふくらみを間近で見たり、冬の学校林を味わうことができます。夏は葉っぱが生い茂って見えない部分や草が茂って通りにくい所も、冬は葉っぱが枯れ落ちているため、比較的自由に散策をすることができます。



学校林の中では授業も行います。左の写真は、中学年の学校林で行った音楽の授業の様子です。学校林に合うイメージの曲を子どもたちが作り、お互いに発表を行いました。学校林の中で、鳥のさえずりを聞きながら、自然の匂いを嗅ぎながら、子どもたちは自然と一体になって、授業に没頭することができます。他にも、図工や国語などの授業実践も行いました。

下の写真は8月に東京で行われた「学校の森 子どもサミット」の様子です。本校の6年生代表児童三人が、「学校林の魅力」を発表しました。今年で3回目の参加です。このサミットでは、学校林活動を行っている学校の児童が全国から集まり、お互いに自校の学校林での活動を交流します。来年の再会を誓って、会場を後にしました。



子どもたちは、学校林を愛し、学校林に感謝しています。貴団体からいただいた助成金で、スノーシューや双眼鏡、ツリークライミングの活動費など、子どもたちの活動のために有効に使わせていただきました。おかげさまで、子どもたちの活動が広がり、実りある学習の成果を保護者や地域の方にも理解していただきました。これも貴団体のおかげと感謝しております。どうもありがとうございます。